

| | |
|------------------------------|--|
| 法人名 | 独立行政法人国立病院機構（平成16年4月1日設立）＜特定＞ （理事長：矢崎 義雄） |
| 目的 | 医療の提供、医療に関する調査及び研究並びに技術者の研修等の業務を行うことにより、国民の健康に重大な影響のある疾病に関する医療その他の医療であって、国の政策医療として機構が担うべきものの向上を図り、もって公衆衛生の向上及び増進に寄与することを目的とする。 |
| 主要業務 | 1 医療を提供すること。 2 医療に関する調査及び研究を行うこと。 3 医療に関する技術者の研修を行うこと。 4 1～3に附帯する業務を行うこと。 |
| 中期目標期間 | 5年間 |
| 委員会名 | 厚生労働省独立行政法人評価委員会（委員長：黒川 清） |
| 分科会名 | 国立病院部会（部会長：黒川 清） |
| 厚生労働省独立行政法人評価委員会の評価基準（手法）の概要 | <p>項目別評価</p> <p>法人の中期目標の達成に向けた業務の個別的進捗状況について、項目ごとに以下の5段階評価を行う。</p> <p>S：中期目標を大幅に上回っている。 A：中期目標を上回っている。 B：中期目標をおおむね達成している。 C：中期目標をやや下回っている。 D：中期目標を下回っており、大幅な改善が必要。</p> <p>なお、評価に当たっては、①業務実績の質、②業務実績に影響を及ぼした要因、③個別の研究課題に係る外部専門家の評価結果等についても考慮することとされている。</p> <p>総合評価</p> <p>記述式。国民の視点に立って、独立行政法人の社会に対する中長期的な役割に配慮しつつ、以下の基本方針に沿って評価を行う。</p> <p>① 独立行政法人の設置目的に照らし、業務により得られた成果が公衆衛生の向上にどの程度寄与するものであったか。 ② 独立行政法人が効率性、有効性等の観点から適正に業務を実施したかどうか。</p> |

| 厚生労働省独立行政法人評価委員会の17年度業務実績評価結果の概要 | 項目別評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|---------|-----------------|-----------|-----------------|-----------------|---------|---------------|-------------|-----------------|---|----------------|---------|-----------------|---|-----------------|-------------|---------------|-------|----------------|
| | ○ 評価結果 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 1 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上 「診療事業」、「臨床研究事業」、「教育研修事業」及び「災害等における活動」の4つの中項目について、6つの評価項目を設定して評価を実施 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <tr> <td>年 度</td> <td>平成16</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>評価結果（項目数）</td> <td>S：2、A：4</td> <td>S：2、A：4</td> </tr> </table> | 年 度 | 平成16 | 17 | 評価結果（項目数） | S：2、A：4 | S：2、A：4 | | | | | | | | | | | | | |
| | 年 度 | 平成16 | 17 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 評価結果（項目数） | S：2、A：4 | S：2、A：4 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 業務運営の効率化 「効率的な業務運営体制の確立」及び「業務運営の見直しや効率化による収支改善」の2つの中項目について、5つの評価項目を設定して評価を実施 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <tr> <td>年 度</td> <td>平成16</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>評価結果（項目数）</td> <td>A：5</td> <td>A：5</td> </tr> </table> | 年 度 | 平成16 | 17 | 評価結果（項目数） | A：5 | A：5 | | | | | | | | | | | | | |
| | 年 度 | 平成16 | 17 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 評価結果（項目数） | A：5 | A：5 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 予算、収支計画及び資金計画 「経営の改善」、「固定負債割合の改善」及び「機構が承継する債務の償還」の3つの中項目について、2つの評価項目を設定して評価を実施 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1"> <tr> <td>年 度</td> <td>平成16</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>評価結果（項目数）</td> <td>S：1、A：1</td> <td>S：2</td> </tr> </table> | 年 度 | 平成16 | 17 | 評価結果（項目数） | S：1、A：1 | S：2 | | | | | | | | | | | | | | |
| 年 度 | 平成16 | 17 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価結果（項目数） | S：1、A：1 | S：2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 短期借入金の限度額（「3 予算、収支計画及び資金計画」の項目に併せて評価を実施） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 重要な財産の譲渡等（「3 予算、収支計画及び資金計画」の項目に併せて評価を実施） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 剰余金の使途（「3 予算、収支計画及び資金計画」の項目に併せて評価を実施） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 その他業務運営に関する事項 中項目「人事に関する計画」で評価を実施（平成16年度は、「人事に関する計画」、「機構が承継する債務の償還」等4つの評価項目について評価を実施） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1"> <tr> <td>年 度</td> <td>平成16</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>評価結果（項目数）</td> <td>A：4</td> <td>A：1</td> </tr> </table> | 年 度 | 平成16 | 17 | 評価結果（項目数） | A：4 | A：1 | | | | | | | | | | | | | | |
| 年 度 | 平成16 | 17 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価結果（項目数） | A：4 | A：1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 《参考》定量的指標の実績（平成17年度）（例） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1"> <tr> <th>指 標</th> <th>中期計画</th> <th>年度計画</th> <th>実 績</th> </tr> <tr> <td>救急患者及び小児救急患者受入数</td> <td>平成15年度比10%以上の増加</td> <td>—</td> <td>平成15年度比12%の増加</td> </tr> <tr> <td>高額医療機器共同利用数</td> <td>平成15年度比40%以上の増加</td> <td>—</td> <td>平成15年度比約64%の増加</td> </tr> <tr> <td>治験実施症例数</td> <td>平成15年度比20%以上の増加</td> <td>—</td> <td>平成15年度比49.6%の増加</td> </tr> <tr> <td>看護師等養成所の施設数</td> <td>中期目標期間中31施設削減</td> <td>2施設削減</td> <td>2施設削減（累積7施設削減）</td> </tr> </table> | 指 標 | 中期計画 | 年度計画 | 実 績 | 救急患者及び小児救急患者受入数 | 平成15年度比10%以上の増加 | — | 平成15年度比12%の増加 | 高額医療機器共同利用数 | 平成15年度比40%以上の増加 | — | 平成15年度比約64%の増加 | 治験実施症例数 | 平成15年度比20%以上の増加 | — | 平成15年度比49.6%の増加 | 看護師等養成所の施設数 | 中期目標期間中31施設削減 | 2施設削減 | 2施設削減（累積7施設削減） |
| 指 標 | 中期計画 | 年度計画 | 実 績 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 救急患者及び小児救急患者受入数 | 平成15年度比10%以上の増加 | — | 平成15年度比12%の増加 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 高額医療機器共同利用数 | 平成15年度比40%以上の増加 | — | 平成15年度比約64%の増加 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 治験実施症例数 | 平成15年度比20%以上の増加 | — | 平成15年度比49.6%の増加 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 看護師等養成所の施設数 | 中期目標期間中31施設削減 | 2施設削減 | 2施設削減（累積7施設削減） | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|---|---|--|
| <p>厚生労働省独立行政法人評価委員会の17年度業務実績評価結果の概要</p> | <p>総合評価</p> <p>○ 評価結果 独立行政法人に移行後2年度目に当たる平成17年度においては、初年度から取り組まれた病院長の裁量・権限の拡大等を通じた業務進行状況の迅速な把握と業務改善への努力が全体として着実に実を結びつつあることがうかがえる実績となっている。</p> <p>特に、積極的な業務運営の効率化と収支改善に向けた取組は、初年度に引き続き2期連続して中期目標に掲げる経常収支に係る目標を全体として達成したことに加え、2年目に純利益（単年度）を計上するなど特段の実績を上げている。こうした全体としての大きな成果は、理事長のリーダーシップの下に、各病院長をはじめ職員が懸命な経営努力をした結果であると高く評価する。なお、病院の収支は種々の環境等に左右されるが、今後とも中期目標の期間全体において目標値を達成できるよう努められたい。</p> <p>また、平成17年度においては、救急医療への取組や地域連携パスを含むクリティカルパス活用の進展など質の高い治験の推進に向けた取組も実績を上げている。</p> <p>さらに、機構のネットワークを活かした臨床研究活動やEBMの推進に向けた取組が順調に進捗しているほか、質の高い治験の推進に向けた取組も実績を上げている。</p> <p>着実に経営が改善される中、今後とも、患者の目線に立った良質な医療と健全な経営とのバランスがとれた一層の取組を期待したい。</p> <p>なお、国立病院機構の契約に関して、医療事業として求められる安全性や質の確保に充分留意しつつ、独立行政法人としてより透明性と競争性の高い契約とすべく厳正かつ適切な取組を望むものである。</p> <p>これらを踏まえると、中期目標の2年度目に当たる平成17年度の業務実績については、全体としては国立病院機構の設立目的に沿って適正に業務を実施したと評価できるものである。地域の医療機能の分化・連携等我が国の医療提供体制のあり方が大きく変わりつつある現在、全国に146病院のネットワークからなる国立病院機構が、我が国の医療政策における役割等も踏まえ、今後ともそのネットワークを活用して積極的に国民医療の向上に貢献していく姿勢を期待したい。</p> <p>○ 評価の理由、特記事項等</p> <p>(1) 診療事業 使用医薬品の標準化の検討、新結核退院基準による適切な結核医療、多施設共同臨床研究など、機構の病院群にふさわしい取組や成果として高く評価できるものであり、今後とも大きな実績があがることを期待。</p> <p>(2) 臨床研究事業 国立病院機構のネットワークを活用した臨床研究の推進は、高く評価。具体的な成果を得るには一定の期間を要するが、今後の成果を大いに期待。</p> <p>(3) 教育研修事業 初期臨床研修後の専門領域の研修制度として、しっかりした枠組みの下で後期臨床研修制度（専修医制度）に先進的に取り組んでおり評価できるが、研修医などにどのように受け止められているかなども把握しつつ、今後成果をあげることが期待。</p> | <p>厚生労働省独立行政法人評価委員会の17年度業務実績評価結果の概要</p> <p>(4) 災害等における活動 計画どおりに研修を実施しているほか、国際緊急援助を含む災害援助に積極的に参加。国立病院機構の性格からも、今後ともこうした貢献を大いに期待。</p> <p>(5) 効率的な業務運営体制の確立 平成17年度において業務の適正かつ能率的な実施と会計処理の適正を期すことを目的として内部監査に精力的に取り組み始めたことは評価。</p> <p>(6) 業務運営の見直しや効率化による収支改善 国立病院機構の契約に関して、随意契約に関する問題が指摘され、見直しを行っている。費用按分に難しさはある中、部門別決算等にも積極的に取り組んでいることも評価。</p> <p>(7) 経営の改善 平成17年度の経常収支率が100.47%と初年度に続く2期連続した黒字を達成し、さらに平成17年度単年度の総収支でも純利益を上げており、特段の実績と認められる。こうした著しい経営改善は、各病院長をはじめ全職員が懸命な努力をした結果であると高く評価。</p> <p>(8) 固定負債割合の改善、その他の業務運営等に関する事項 必要な病院機能の維持の観点から平成16年度に比べて投資規模を増加させる中で、建築単価等の見直しや内部資金の活用も含め効率的な投資に留意し、固定負債割合を改善させ、財務状況の改善に大きく寄与しており評価。</p> <p>(9) その他の業務運営等に関する事項 平成17年度においてはブロック内の中核的な病院から医師不足病院への医師派遣の支援を進めるなど、国立病院機構のこうした取組は他にも参考になるものでもあり評価するとともに、今後とも本部ブロック組織の支援・連携も含めた適切な運用に期待。</p> <p>政策評価・独立行政法人評価委員会の意見</p> <p>以下の点を踏まえつつ、厚生労働省独立行政法人評価委員会の評価結果が活用され、中期計画等に基づく業務の質の向上及び効率化が、引き続き効果的に推進されるよう図っていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 個々の病院の機能や経営効率の見直しを視野に入れ、政策医療を担うナショナルセンターが平成22年度から独法化されるなどの変革を踏まえ、今後の政策医療の在り方を視野に入れた各病院の位置付けや役割についての検討に資する評価を行うべきである。 健全な財務運営を推進する観点から、単年度の経営収支は当然のこと、中長期的な建替需要や医療機器の設備更新等も踏まえた財務運営の在り方の検討に資する評価を行うべきである。 レセプト電算処理や電子カルテ導入等のIT化の推進やDPC（診断群分類別包括評価による診療報酬支払制度）の導入促進など、国の医療政策に的確に対応しているかを明確にした上で、評価を行うべきである。 <p>ホームページ</p> <p>法人：http://www.hosp.go.jp/ 評価結果：http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/08/s0824-5.html</p> |
|---|---|--|

4 . 平成18年度の財務状況

< 損益計算書 >

(単位：億円)

| | 16'実績 | 17'実績 | 18'実績 | 対前年度 |
|----------|-------|-------|-------|------|
| 経常収益 | 7,461 | 7,665 | 7,677 | 12 |
| 医業収益 | 6,826 | 7,004 | 7,000 | 4 |
| 運営費交付金収益 | 516 | 509 | 498 | 11 |
| その他収益 | 119 | 152 | 179 | 27 |
| 経常費用 | 7,459 | 7,629 | 7,553 | 76 |
| 人件費 | 4,238 | 4,256 | 4,279 | 23 |
| 材料費 | 1,595 | 1,650 | 1,659 | 9 |
| 経費 | 844 | 919 | 949 | 30 |
| 減価償却費 | 563 | 600 | 477 | 123 |
| 支払利息 | 219 | 204 | 189 | 15 |
| 経常利益 | 2 | 36 | 124 | 88 |
| 臨時利益 | 233 | 7 | 8 | 1 |
| 臨時損失 | 250 | 39 | 42 | 3 |
| 当期純利益 | 16 | 3 | 90 | 87 |

経常収支率 100.0% 100.5% 101.6% + 1.1%

総収支率 99.8% 100.0% 101.2% + 1.2%

3期連続経常収支のプラス

2期連続の黒字経営により繰越欠損金の解消

< 貸借対照表 >

(単位：億円)

| | 16'期末 | 17'期末 | 18'期末 | 対前年度 |
|------|--------|--------|--------|------|
| 資産 | 11,506 | 11,490 | 11,519 | 29 |
| 流動資産 | 2,076 | 2,248 | 2,364 | 116 |
| 固定資産 | 9,429 | 9,242 | 9,155 | 87 |
| 負債 | 9,125 | 8,974 | 8,873 | 101 |
| 流動負債 | 1,666 | 1,588 | 1,628 | 40 |
| 固定負債 | 7,460 | 7,386 | 7,245 | 141 |
| 資本 | 2,380 | 2,516 | 2,646 | 130 |

| | | | | |
|-------------|-------|-------|-------|------|
| 財政融資資金借入金残高 | 7,400 | 7,193 | 6,865 | 328 |
| 国立病院機構債残高 | 0 | 30 | 60 | + 30 |

自己資金を活用して病院機能の向上に資する整備を実施し、借入金残高は大幅に減少させた。